

# 保育ステップジャンプ

*Hoiku Step jump*



## 発行者

千葉県民間保育振興会

代表者 高橋 克文

編集者 藤井 威郎

事務局 千葉県松戸市東松戸 1-2-34

〒270-2225 音のゆりかご保育園

TEL 047-712-1056

FAX 047-712-1057

## 総会のお知らせ

平成 31 年度

千葉県民間保育振興会 総会

期 日：平成 31 年 5 月 21 日 (火)

場 所：千葉市中央区新町センシティタワー 23 階

地域代表者会議 報告

第一回 成田市 ウエルコホテル

開催日…平成三十年十二月十八日(火)

第二回 木更津市 木更津市 東京ベイプラザホテル

開催日…平成三十一年一月二十一日(月)

主催…千葉県民間保育振興会

報告者…市川市国府台保育園 小室香

千葉県民間保育振興会は

現在千葉県内 250 以上の加盟

園からなる団体として、相

互の連絡、情報の共有を行

い、それをよりよい保育園

経営とその環境作りのため

に活動しています。とは言

え加盟園は千葉県全域にわ

たり、その地域ごとの状況

は様々、又抱える問題も多

岐にわたります。それら多

様な園の状況に対して必要

な活動は何かと模索しなが

ら進んでいる現状と言える

でしょう。また毎年提出し

ている県への要望書では、

県組織として要望を纏める

作業を行っています。地

域差も大きいことからその

集約は容易ではありません。

そこで各地域からその代

表者にお集まりいただき、

抱える課題や問題点を出し

合っていたいただき、それを千

葉県への要望書や今後の事

業展開などに反映させたい、

さらにこの機会に振興会の

活動についてご理解を深め

られるとともに、地域を超

えて情報交換の機会として

いただければと思います。2 回に

わたり企画しました。以下

報告です。①会長挨拶 高

橋克文②保育情勢報告 全

国私立保育園連盟常務理事

平野弘和氏

様々な制度や仕組みが毎年

のように変わっていく中、

来年度 10 月より幼児教育が

無償化されることが進めら

れています。詳細はこれか

らですが、来年度に向けて

はその対応が求められま

す。その中で、給食費の取

り扱いは行政より分かりや

すい説明が必要になると思

います。また、子ども子育

て支援法の改定も再来年度

に迫り、今まで経過措置と

されてきた項目がどうなる

のか気になるところです。

そこで保育の最新情勢につ

いて全国私立保育園連盟よ

り常務理事に講師をしてい

いただき、その動向のお話を

していただきました。

第二分科会

「もう一度学び直したい

離乳食」

講師 伏谷美恵子氏

(離乳食インストラクター認

定講師・管理栄養士)

報告者

たちばな保育園

保育士 阿部 雅美

第二十三回 保育者の集い

テーマ「NEXT STAGE」

開催日…平成三十一年一月二十六日(土)

場所…ホテルグリーンタワー幕張

主催…千葉県民間保育振興会



「離乳食」は、一生の食事

子どもの内臓機能が整うのは 8 歳頃です。内臓や身体機能が未発達の時期は、乳汁だけでは栄養が不足するため、離乳食を提供します。離乳食は、早く始めれば早く終わるわけではなく、内蔵機能の発達に合わせて

進めていかなければなりません。離乳食初期～中期は、栄養の摂取は乳汁で行います。離乳食は、「食べる」経験と「もぐもぐ」「つくくん」に慣れることが目的です。後期になると、乳汁と離乳食で摂取する栄養の割合が半々になり、口を閉じて嘔むことを、手づかみ食べの楽しさを味わうことが目的になります。最後の完了期は、離乳食が完了（終了）と思われるがちですが、「離乳を完了する」時期です。食べ物を噛みつぶせるようになり、食べ物で栄養の大半をとれるようになった時期を言います。まだ大人と同じものは食べられません、手づかみやスプーンを使って食べる喜びを味わう時期です。完了期は、子どもの「食べたい」意思を尊重して進めていくことがとても重要です。

保育園では、生活リズムや家庭の状況などが全く違



う子どもたちをお預かりしています。今回、伏谷先生のお話を聞いて、一人ひとりの発達に合わせながら、「食事って楽しい」「食事っておいしい」という気持ちを子どもたち全員に育む大変さと必要性を改めて実感しました。そして、保護者には、保育者が子どもの発達段階を適切に把握した上で、相談や悩みに応じた支援が必要だと思いました。

第二分科会

「発達に合わせた運動指導と異年齢児でも楽しめる集団あそび」  
 講師 齋藤元輝 氏  
 (エール株式会社)  
 報告者  
 こうぜん保育園市川  
 保育士 四家真梨菜  
 市川南保育園  
 主任保育士 伊賀由美子

楽しく自発的に運動できる為の指導法を学びました。全国各地にある保育園の活動風景を映像で見ながら、子どもに合った声掛けのポイントや、運動器具・用具の体感前の導入となる遊びの紹介をしていただきました。紹介の中、「何かが出来ない」ということは、それに関わる何かの遊びが足りない」という言葉が印象的でした。出来ない動作を繰り返し行わせるのではなく、日常の遊びを発展させて楽しく活動していくと体力が向上していくとのこと。参



加者それぞれが日頃の保育やクラスの子どもの姿を振り返って何が出来るかを考える時間となりました。マット運動・跳び箱・大縄・かけっこの導入あそびで、乳児に出来る活動も教えていただき大変参考になりました。実践では、逆上がりの補助の仕方を学び、全く出来なかった人がほんの少しの補助で回転できていた姿には驚きました。ここでは、成功体験と自己肯定感の積み重ねが挑戦する意欲に繋がることを知りました。ま



た、運動前の準備として、本の縄を歌いながらジャンプしたり、2人組背中合わせのゲーム、グループで指キャッチ・ハイタッチゲームなどで盛り上がりました。準備とは、みんなが楽しめる遊びであることが大切であり、次の活動に期待を持たせることだそうです。「心と身体の力みをとる6つの動作」(走る・転がる・ぶら下がる・飛び跳ねる・渡る・登る)、「子どもが熱中する10のポイント」(声掛け・満足・待ち方・褒め方・期待



感の演出・否定訂正の違い・  
くし過ぎない・興味関心・要  
求の法則・並ばせ方)も参考  
になり、すぐに実践したく  
なりました。今回の研修で  
体感したこと・学んだこと  
を生かし、日常の保育で出  
来ることをそれぞれが考え  
環境・人数・年齢などで遊び  
をアレンジし、体を動かす  
ことが好きになってもらえ  
るよう一緒に遊びを楽しん  
でいきたいと思えます。

第三分科会

「書ける！伝わる！」

おたより講座

講師 見上裕美子 氏

(地域メディア編集者

主婦向けコンテンツの

ディレクション)

報告者

森の葉保育園 久保孝太

毎日の連絡帳や、クラス  
の様子を知らせるお便り。  
「もっと早く書けたら…」

「より面白く、伝わりやす  
い文章を書けるようになり  
たい。」と思ったことが一度  
はあるのではないでしょう  
か？今回、第三分科会では、  
読み手に伝わりやすい文章  
の書き方や構図を作るテク  
ニック、お便りのスムーズ  
な作り方などを、ライター  
兼編集者として活躍されて  
いる、見上裕美子先生に教  
えていただきました。読み  
やすく、伝わりやすいお便  
りを作るためには、clear



(明確)、correct(正しい)、  
concise (簡潔) の「3C」  
を意識し、「正しい情報を簡  
単に、わかりやすく」纏める  
ことが大切です。また、見出  
しを作ったり、写真を活用  
したりすることで、仕事に  
家事に子育てに…と忙しい  
保護者が、重要なことが一  
目見てわかるお便りを作っ  
ていくことができると教わ  
りました。3Cを意識した  
わかりやすい文章を書くた  
めには「誰が、いつ、どこで、  
何を、なぜ、どのように」の

6つ、いわゆる「5W1H」  
を明確に書いていきましょう。  
う。また、書き進めるにあた  
って、ら抜き言葉や話し言  
葉、「くです。くます」が続  
く箇条書きのような書き方、  
「頭痛が痛い」などの二重  
表現が無いように注意が必  
要です。書き終わったら一  
度文章を見返し声に出して  
読んでみたり、誰かにチェ  
ックしてもらったりすると  
良いとのことでした。限ら  
れた時間の中でスムーズに  
作るためにも、仕事の中  
でのお便りの優先順位を確立  
したり、日頃から題材を集  
めたり、「ラフ」と呼ばれる  
簡単な設計図を作ったりし  
ておくこと良いとのことだ  
した。また、作成する保育者な  
らではのオンリーワンな情  
報を練り込んでいくと、保  
護者が楽しめるお便りへと  
近づいていきます。日々の  
保育と並行してお便りを書  
くことは簡単なことではな



いと思えますが、今回の研  
修で教わったことを活かし、  
時間を有効に使いながら、  
保護者が楽しめるお便りを  
提供できるように努めてい  
こうと思えました。

第四分科会

「どうしたらいい？保護者とのコミュニケーション」  
 講師 實川慎子 氏  
 (植草学園大学准教授)  
 報告者  
 音のゆりかご保育園  
 主任保育士 門田奈々



保育現場で保育者のストレス要因となりがちな「職員との関係」と「保護者との関係」に焦点を当て、講師から「できちゃった結婚」をした19歳の保護者」という内容の事例を挙げて、その対処法をグループワークで話

し合いました。過去や現在の保護者を取り巻く状況や気持ちを理解し、直接的サポート(子どもの最善の利益を保障するために園で行えることは何か?)と間接的サポート(保護者の子育てを実践する力を高めるために行えることは何か?)という2つの方法で検討しました。グループワークでは、保護者の真のニーズの把握と、園として対応可能なことを考えたり、子どもの最善の利益を保障することと保護者の子育てを实践する力を高めることの両立について、いろいろな保育園の先生方の意見や情報交換もでき、自分自身の気持ちや、他の職員や保護者の気持ちに気づき、今より少しでも風通しの良い温かな関わりを模索できたのではないのでしょうか。人と関わる保育現場ですから、正解は一つではありません。今回の研



修から目の前の子どもとの関わりに幅が広がり、保護者対応にも余裕がでてくるはずです。ひとりひとりの保育士が、それぞれの保育現場で、笑顔で、自分らしく、働き続けられることを願っています。

第五分科会

「保育」の「を」をはずしてみたよ(子どもに関わる人たちの交流の場づくり)」  
 講師 青山誠 氏  
 (子供に関わる人との対話と交流の場「サタデーナイト」主宰)  
 講師 石上雄一朗 氏  
 (保育者の為の語り場「語りbar」主宰)  
 講師 鈴木秀弘 氏  
 (和光保育園、育ちあいの場づくり「わこう村」事務局)  
 報告者  
 けやきの森保育園おたかの森 園長 小林 元  
 緑ヶ丘はぐみの杜保育園 丹澤 瑛美

今回、第五分科会では和光保育園鈴木秀弘氏、石山雄一郎氏青山誠氏を講師にフリートーク式でお話をしていただきました。保育園、幼稚園とは違う視点やそれぞれ違う環境の中での保育に関する考え方や活動を実践の話を通して、参加者の方々の思考をほぐしあったり、



刺激し合ったりする場として質問コーナーや意見を伝え合う時間を設けました。保育に悩んでいる、やりたくないけどやらなきゃいけない、これで困っているという保育者の方は多いかと思えます。講師の方々の話は、そのような考えをもつ保育者に向けて「保育」の枠だけで考えるのではなく地域の方々との出会いの場を通すことで、今までに出会ったことのない保育の可能性や考えが生まれ、子ど

ものためにから自分のためになることやそれが明日への活力に繋がることを学びました。そのような行動が、保護者もやってみたい、挑戦してみたいから保育園に頼むなどの関係性に繋がりがお互いに感謝の気持ちを持つようになるなど、多様性を活かすことの保育の素晴らしさを学びました。

「できない」という考えから「やってみよう」という気持ちの変化を強く感じました。ですが、現実には難しく



園の方針や場所、市役所との関連性、保護者の協力面などを考慮するとなかなか行動に移すことができないなどの参加者の方々から声も多く聞かれました。

まだまだ課題が多い中ではありますが、少しの工夫や地域の方々との協力や交流がより良い保育に繋がります。今までに出会ったことのない保育の可能性を広げていくのだと感じました。

### 第六分科会

「子どもの表現から

その心持を読み解く」

講師 鈴木まひろ 氏

(千葉県民間保育振興会)

副会長・和光保育園

報告者

若梅保育園

保育士 山口和孝

今回、司会進行役でお仕事をさせてもらいました。分科会では、10人グループと言う多い人数でのグループ構成ではありましたが話が盛り上がり、司会役、書記役もすぐに決まり、進めることが出来ました。連続研修会の際は、6名程度のグループで1時間ほど話し合いますが、今回は30分の話し合いでした。実際一人ひとりが思う存分話せたかが不安でした。しかし、発表時間では、各グループ密に話せたようで、内容が深まっているようでした。



今回の研修で気付いたことは、私たち保育士は「子どものため」と思い、やってあげたり、指導を行ったりして自分自身いい保育をしていると自己満足に陥り、保護者の為、園の為に違う方向性へと進んでしまいます。学校教育を経て見てきた先生像があり、ロールモデルでもあります。その先生像が関係が正解だと思いきみ、大人になってもその指導を子どもに行ってしまう間違った指導方法になっている



と気づきました。

大人は、たかさんの経験を経て、正解がわかっている部分もありますがその正解を子どもに教えてあげるのではなく「考える力」や「生きる力」を培うために、子どもなりに解決しようとしていたり、子どもなりに葛藤や不安に対し、共感したり、共有したりして寄り添う存在でよき理解者であるべきだと思います。この研修を受けて更に学校教育の見直しを始め、保育では子どもが



やりたいと思える環境設定等の見直し等をするべきだと感じました。近代化の波に乗ろうとした明治維新以降の「教育」を抜本的に変えるのは難しいですが、私は、子どもたちが好きなことを集中して取り組める環境や長所を伸ばしていき、物事を極めていけるような環境にこれから取り組んでいきたいと思いました。



第23回を迎え今回の「保育者の集い」は、海浜幕張で実施された。全体会のテーマは「気になる子」について。今までも多くの研修会でこのテーマが取り上げられて

**保育者の集い全体会**  
 「気になる子の発達支援  
 ～発達の気になる子どもを理解する～」  
 講師 市川奈緒子 氏  
 (白梅学園大学教授)  
 報告者 けやきの森保育園おたかの森 園長 小林元

いることから予想できる通り、保育者にとって日々頭を悩ませるテーマであるということを示している。今回の研修では、発達障がいと言ってもそこには千差万別の個人差があり、専門家をもってしても様々な異論があるということを改めて認識した。そして、自分にとって印象深く残ったポイントとは、その特徴、その日々の生活の中で感じる苦労は決して発達障がいを持つからこそではなく、我々にと



っても通じるものがあるということ。例えば中身の見えない箱の中に無数の虫がおり、その中に手を入れることができませんか。黒板に爪を立てた時の音に耐えることはできませんか。など我々の感覚でも耐え難いことにはあり、発達障がいの方々にとっては、そのような耐え難い場面が数多くあり、それが少々過敏であるということ。彼らにとってはその感覚や環境に適応しようとする為に声を出したり、



体を動かしたりしている。彼らなりの努力を私は今までどれだけ見過ごしていたのだろうと考えさせられた。彼らと共に生きていく我々にとっては理解すべき事項であり、支援を行っていく為には不可欠であるということを学んだ。今後、発達の気になる子どもへ関わる際にはアプローチが大きく変わるのだろうと感じ、今更ながら気づかされたことに気恥ずかしさも覚えた研修であった。



## 子どもの育ちを支える運動

ブロック研修会 in 千葉 (関東ブロック)

開催日…平成三十一年二月七日(木)

場所…成田市文化芸術センタースカイタウンホール

主催…公社 全国私立保育園連盟

### 講演

「保護者とともに子どもの心を育むために！」

～保育が見えれば保護者も

変わる～

講師 大豆生田啓友 氏

(玉川大学教授)

報告者

白根麻衣香

今回は成田の方で、子どもの育ちを支える保育についての研修に参加させて頂きました。前半は講師の方から講義を受け、後半ドキュメンテーションの作成をしました。講義では、子ども主体の遊びが学びに繋がるということや、保護者から見える保育をすると信頼が

得られること等についてのお話を聞くことが出来ました。

保育園は幼稚園と違い、教育というより「預かる」というイメージを強く持たれています。英語や体操を教えることだけが教育ではないと学びました。子どもが主体的に遊べるようにすることも「教育」であるという事です。「意欲」「自尊心」「粘り強さ」「自己制御」「人とかかわる力」の5つの非認知能力を育てることが、子どもに差をつけるというデータも出ているそうです。そのためには、子どもが「やりたい！」と思えるような

遊びを提供したり、「そうだね」「〇〇したかったんだね」

等の受容的・応答的なかわりが大切になってきます。小さいころからその経験を重ねていくことが、これからの子ども達の成長に繋がって行くと分かりました。何気ない会話の中に、子ども達の発見や経験がある中で、その部分を丁寧にかかわらなくてはなりません。

また、遊ばせたままではなく、その先が大事だということもお話もありました。

例えば、子どもが集めた石を飾り、他の子に紹介すること。「石集め」が1つのブームになったり、次の遊びのきっかけになったりもします。遊びのブームに気づいて、遊びを展開させられるような環境作りを保育士はしていく必要があります。そして、親にはその遊びでどのような学び・経験があるのかを分かりやすく

「見える化」しなくてはなりません。普段仕事で忙しい、保育園での様子をゆっくり見れない分、保育者が

見えるようにしていくことが保護者からの信頼に繋がるのだと学びました。そこでドキュメンテーションのようなもので、保育の様子が見えるようにします。ここでは、子どもの写る回数の問題などが出てきますが、ドキュメンテーションを出す回数を増やしたりすることで緩和される部分があります。また、写真1枚にコメントをつけるだけの簡単な物でも、理解しやすいものであれば十分だそうです。負担にならないように続けていくことが大事だとお話がありました。また例として、泥団子をテーマに書くときに「大きさ」「感触」「数」という様々な角度から書くことで、「1つの遊びでも、

いろんなことを経験出来るんだな」と理解しやすくなります。

今回の研修で、普段の保育をいかに保護者の方々に分かりやすく伝えられるかがポイントなのだと分かりました。「見えない」「分からない」という不安をなくしてもらい、安心して預けてもらえる環境を整えていかなければならないと思います。そのためにも、子ども達が興味・関心を持つものを大切にした遊びが出来るよう保育をしていきたいです。